

犬塚

甚乃埜の藤原某ハ 按ずるふ父の名不見り 代々三河國
 江原の郷と領し清康君の治時より播
 第の列小加へる先祖ハ鈴木と家跡と
 といふにめ足利家小伝へ鷹將小伝
 奉へたる時ある藤原の中小鶴ハ居
 るりつるとかの先祖何某へて犬塚
 ひらせ藤原小入て鶴と追出させると

丁

らぎるるかくてすくに小塚のりたる
小休の終ひめして寧ろやうけつては
犬のやあひさよとのそがる得の
ありたましより犬と塚ととかしり
家號小せよと命し終り時小の塚の
うつゝ小桐の木を生るる花も盛り
るりたる小たましと指して終ひ家紋小
せよと九内小桐の花と鳳凰と紋も

つゝるるしてたゆりりるる後陸奥
國にある人ありたましとそれと志し
尋ねりり三河國小しりる頃の陸
奥のるる人いゝと小世は去つての若
るとのありたましと本意と失ひ遂に
小たましよりぬたましより世に居住せり
既く犬塚の門盛りになりりりる各
清家小めとれりつゝりる或は家

號伏をいひ犬塚氏とすそのありき
ましてもその頃川系ふか武邊小すく
れくたやとく望み小ゆりせひかく
て甚左衛門の時小すくまより甚左衛門ハ
廣忠卿

東照宮小使へ奉つし永禄三年今川
義元織田右府と合戦のとき

東照宮義元うため小清馬と出されし

高川城小く清合戦あり此に遣とあ
くせく高名ひ其後二河國熊子
て名良義昭とせめ後ふとたも遣とあ
くせ馬とけ士以討とら高名貞享
書と
かとく東條に城小とてと又高名ひ
同七年同國糟塚に城小とせり合乃
とた敵二人と射倒し首級と得し小
それ一人ハ人登藤五郎とてと敵方け

ひくに甚た境の事と討取事何事
りたまし小過んと清感悦々しひか
くてその遣は二男甚三郎小譲りあ
たふあり其後二河國江原小としと死
し法名法禁としり其子九人境某
不知年小して父小離之酒井雅樂助
忠世小は十五歳なり忠世卒多坂渡守
正信小はこれ以言してて遂に

召出さるる事しり清出陣なりしは清
兜持し役と勤め常に清島見の役候
うけたゆりり清側近く勤はしりあり
まゝ清陣ありしは小清放鷹なりしは
清刻子の事と司る此ナリり清小間遣の
支配と命をさし黒嶽並同心五十人
とつありり
貞享書上(一)子孫
并掲の列小ありし
又内某は甚た境の某る三男ありり